短期日本語集中プログラムにおけるCLILの実践報告：ディベートとディスカッション

国際教養大学日本語プログラム　浜田英紀

はじめに

＜プログラムの概要＞

- １～２月　（５週間強）
- 中上級レベル（３～４年の学習歴）
- オーストラリアの大学から
- 参加者１２人

　　オーストラリア、中国、香港

はじめに

- 秋田学（歴史、伝統芸能、伝統工芸、人口問題など）
  毎日約３時間（月～金）

- 会話クラス（９回X４５分）

- その他：バスツアー、特別講義（歴史、伝統芸能）、ホームステイ、最終発表、など

- 教師２人　＋　特別講師２人

はじめに

＜上司からのお達し＞
秋田を題材にして、CBI/CLILを使った中上級の日本語クラスを！

＜CLILとは？＞
４つのCがあり、その中でも思考（Cognition）が重要

＜どうすれば思考させることができるのか？＞
ディベート？ディスカッション？両方やってみよう！

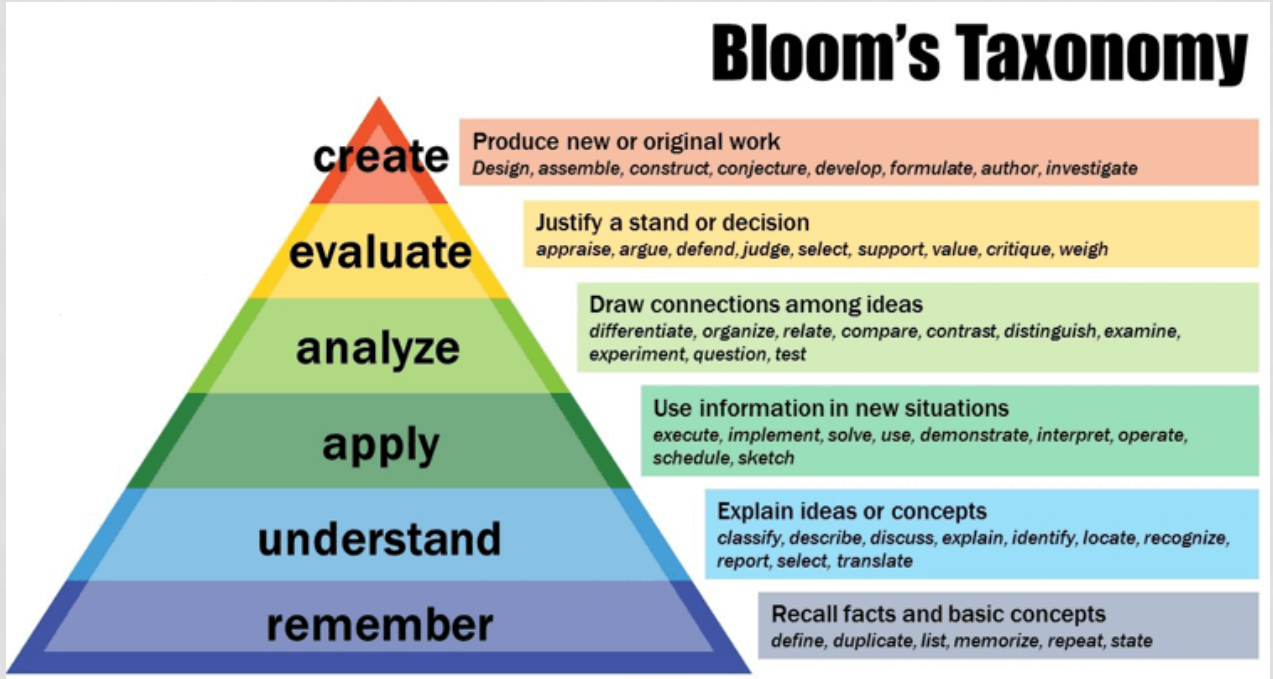
発表の流れ

1. Cognition（思考）について
2. ディベートとディスカッション
3. 活動内容
4. 学生のコメント
5. 考察・まとめ

1．COGNITION（思考）

LOTS(Lower-Order Thinking Skills)　：低次思考力
HOTS(Higher-Order Thinking Skills)：高次思考力

1．創造
2．評価
3．分析
4．応用
5．理解
6．記憶



1．COGNITION（思考）

池田（2016）

1．創造：新しい考え・見方・物を産み出す
2．評価：価値判断する・批評する・論じる
3．分析：分類する・比較する・関連づける

4．応用：別の状況で使う・当てはめる
5．理解：解釈する・説明する・言い換える
6．暗記：覚える・繰り返す・列挙する

1．COGNITION（思考）

「地球温暖化」

- 新出単語・重要語句の習得
- 文法の説明
- 意味内容の確認
- 個人的取り組みについての話し合い

LOTS：低次思考力

語彙習得・・・・・・・・・暗記
文法説明＆意味確認・・・理解
個人的取り組み・・・・・応用

→ 正答が用意されている

池田（2016）

1．COGNITION（思考）

「地球温暖化」

- 温暖化対策を時間・場所・場面で分類　・・・分析
- 長所・短所の検討　・・・・・・・・・・・・・評価
- 環境意識向上のための方法を考案　・・・・・創造

↓

HOTS：高次思考力 → 正答が用意されていない

池田（2016）

２－１．ディベート

「知的思考力」の向上が認められた（和井田・小泉・田中　2016）

「知的思考力」とは

①物事を異なった立場から見る「複眼的思考能力」
② 主張を論理と証拠によって基礎づけ、
また相手の主張の論拠や証拠を検証する「批判的・論理的思考能力」
③資料を探索・収集・整理する「情報収集・整理能力」

２－１．ディベート

批判的思考態度の育成が確認できた。（青柳など　2010）

論題に対する自己及び他者の認識を深めたり、変革したりすることができる
（花田　2010）

２－２．哲学対話・ディスカッション

苫野（2017）

問いのマジックにひっかかってはいけない！

「問いのマジック」＝「二項対立的な問い」

Q:教育は子どもの幸せのためにあるのか？
それとも、国家を存続・発展させるためにあるのか？

世の中にどちらかが絶対に正しいなんてことはほとんどない！

２－２．哲学対話

問いを変える必要がある

Q:教育は子どもの幸せのためにあるのか？
それとも、国家を存続・発展させるためにあるのか？

↓

Q:教育は、どのような意味において子どもたちのためにあり、
またどのような意味において国や社会のためにあるのか？

この問いなら、共通了解にたどり着くことが可能！第３のアイデアを生み出せる！

実践研究の課題

読解の内容理解の過程で思考のLOT（低次思考力）の発達を促し，
ディベート・ディスカッションでHOTS（高次思考力）の発達を促すのでは？

「伝統工芸品の保存・継承」というテーマでディベート・ディスカッションを行った。

３．関連活動の流れ

1. 人口増加と減少のいい点と悪い点について考える。
2. 本「未来の年表」を読んで、日本の人口減少が進んだらどうなるのか知る。L
3. 新聞記事を読んで、秋田の現状と対策を知る。L
4. 秋田の人にインタビューして人口問題についてどう考えているのか知る。L/H
5. 伝統工芸品とその継承問題についてインターネットで調べたり、新聞記事を読んだりする。L
6. 「伝統工芸品を保存・継承すべきか」というテーマでディベート、ディスカッションの順に行う。H

青＝LOTS、赤＝HOTS、緑＝LOTS&HOTS　を促す活動

ディベートを行うまでの流れ

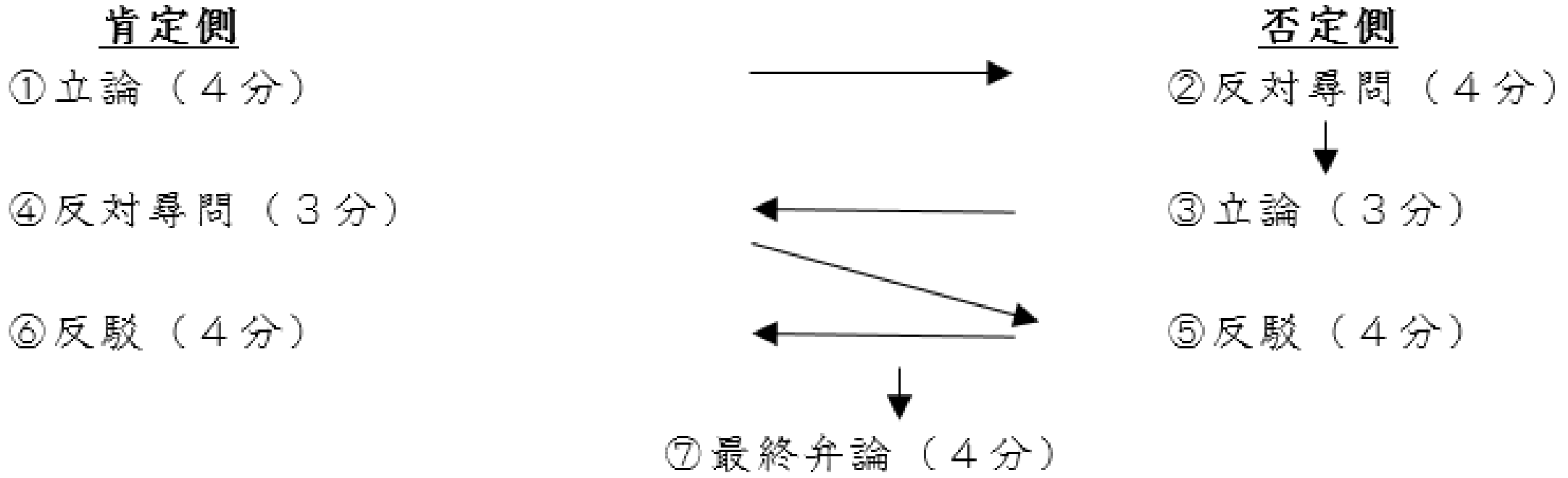
＜練習＞

1. 「犬VS猫」のテーマで、教師と学生で簡単なディベートを行う。
2. 本番と同じディベートの流れを説明。
3. 「都会VS田舎」のテーマで、学生を２チームに分けてディベートを行う。

＜本番＞

1. チーム分け（自分の意見とは違うチームに）
2. チームで立論の準備
3. ディベート

ディベートの流れ



ジャッジの役割

肯定側		否定側	
良い点	良くない点	良い点	良くない点

「ジャッジの人は、どちらのチームが勝ったと思うか決めてください。自分が賛成するチームを勝ったチームにするのではなく、ディベートとして、論理的に話ができたチームを選んでください。」

伝統工芸品を保存・継承する必要があるか？

- 遺産はアイデンティティ。普段は考えないが、外国に出たら、自国の伝統工芸品が大切であることがわかる。
- なくなると再生不可能だから。将来後悔するより、守ったほうがいい。
- ただ価値がある。ペットを飼っている人は、かわいいから。それと同じ。ペットはお金がかかるけど、喜びがある。

- 伝統工芸品はその場所にしかない特別な物、アイデンティティであるという分析・評価
- 再生不可能という評価
- 伝統工芸品は他にない存在であるという分析・評価

伝統工芸品を保存・継承する必要があるか？

- なくなったのは自然の流れ。もっと効率的なものを代わりに使えばいい。
- 将来に必要ないし、３Dプリンタなどで作ればいい。
- 作るのに時間がかかるので、人生を無駄にする。
- 需要と供給のバランスがとれれば、みんな買う。今はバランスが悪いので、なぜそれを保存しなくてはいけないのか？
- 後継者がいない理由はほかの仕事のほうがいいから。後継者が決めたことだから、後継者も守る必要がないと考えている。

- 自然の流れでなくなったという分析。
- ３Dプリンタで作るという新しい考え（創造）
- 分析・評価
- 分析・評価
- 分析・評価

ディスカッションの流れ

（ディベートの次の日に行った）

1. １２人を３つの４人グループに分ける。
2. ディベートで出た意見をグループで振り返る。
3. 「後継者を増やす必要があるか。どうしてそう思うか」というテーマでディスカッション。
4. 全体で意見をシェアする。
5. グループで、「実際にどうすれば継承できる・後継者が増やせるか」ディスカッション。
6. 全体で意見をシェアする。

ディスカッション：後継者を増やす必要はあると思うか？どうしてそう思うか？

- 一人いればいい。増やさなくていい。増やすのはいいことだけど、必要性はない。なくなるのはしかたがない。資本主義だからしかたない。利益がないから作りたい人がいない。（分析・評価）

- 増やす必要がある。未来の人がすばらしい工芸品を見られないのは残念だから。伝統工芸品には言葉に表せない価値がある。なくなると見ることもできない。１００年の歴史がなくなるのはもったいない。（分析・評価）

ディスカッション：後継者を増やす必要はあると思うか？どうしてそう思うか？

- お金になるなら後継者はいるはず。でも、給料が安いから、後継者がいないし、ほかの会社に行く。増やすか増やさないかは、自然に決まること。私たちは何もすべきことはないし、何もしなくてもいい。（分析・評価）

- 需要（じゅよう）と供給（きょうきゅう）が決める。（評価）

ディスカッション：実際に、どうすれば継承できる・後継者を増やせると思うか？

- 作り方を残しておく（動画や文章でアーカイブを作る）。
- 国や県にお金を出してもらう。
- 職人たちに早く作る機械を発明してもらう（一部で使う）　（創造）
- 学校や中学で体験活動をする。
- 伝統工芸品株式会社を作り、まとめて作る。デモンストレーションして見せる。　（創造）
- 秋田以外の地域（人がもっといるところ）でする。　（創造）
- 学ぶ・練習の時間を分業し、その技術を集めて、一緒に作る。
- ホームレスに職人になってもらう。　（創造）

考察：ディベートとディスカッションのHOT

どちらにも分析・評価・創造があるが、ディスカッションのほうが創造が多い。

ディスカッションは創造ができるような問いかけができるから、当然。

だが、これらは本当に「創造」と言えるのだろうか？

ディスカッション：実際に、どうすれば後継者を増やせると思うか？

- 職人たちに早く作る機械を発明してもらう（一部で使う）　（創造）
- 伝統工芸品株式会社を作り、まとめて作る。デモンストレーションして見せる。　（創造）
- 秋田以外の地域（人がもっといるところ）でする。　（創造）
- ホームレスに職人になってもらう。　（創造）

考察：ディベートとディスカッションのHOT

だが、これらは本当に「創造」と言えるのだろうか？
↓
使える「創造」と言えるだけのエビデンスが必要なのでは？
↓
エビデンスを調べ、使える「創造」と言えるかどうか考える過程をさらに入れる
↓
つまり、「知識→思考→知識→思考」の流れを繰り返していく必要がある

４．学生のコメント

アンケートから

Q:考える力がつきましたか。どうしてそう思いますか。

- 本来は文化を守るべきだと考えますが、ほかの人の意見を聞けば、私も新しい意見が出ました。
- 特にディベートのおかげで。
- 最初はあまりできなかったけど、そろそろ秋田の事について知ったら考える力がある！

４．学生のコメント

授業後の感想から

「ディベートは相手の欠点を見つけるのに一生懸命で、意味のある意見が出にくい。」

↓

ディベートでは勝つためにするので、実際に使えるアイデアは出にくい。

5．まとめ

読解の内容理解の過程で思考のLOT（低次思考力）の発達を促し，ディベート・ディスカッションでHOTS（高次思考力）の発達を促すのでは？

ディベート＝分析・評価（そして創造１つ）
ディスカッション＝分析・評価・創造

↓

ディベート・ディスカッションでHOTSの発達を促せていると言えるのではないか

ただし、「創造」に関しては必要に応じて「知識→思考」を繰り返す必要がある

参考文献

- 青柳，石井，下田，伊丹，富江，北川，河原（2010）教育用ディベートシステムを導入した学習単元の提案と批判的思考態度醸成効果の評価 『教育工学会論文誌』33巻4号
- 池田真（2016） CLIL活用の新コンセプトと新ツール 池田真、渡辺良典、和泉伸一（編）『CLIL（内容言語統合型学習）：上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第3巻：授業と教材』
- 苫野一徳（2017）『はじめての哲学的思考』ちくまプリマー新書
- 花田（2010）専門職大学院における「ディベート的討議演習−ディベートの教育的有効性とその実際−」『日本教育大学院大学紀要』 3号
- 和井田，小泉，田中（2016）教員養成過程におけるディベート学習の教育的効果−思考力と社会的能力に着目して− 『共栄大学研究論集』 4号